

(様式2)

学校関係者評価報告書

新居浜特別支援学校川西分校

学校番号 (54)

評価実施日		令和7年 2月 13日 (木)	
委員	氏名	所属等	備考
	片平 恵美	PTA会長	
	越智 真里	PTA副会長	書面にて参加
	小野 真理	PTA副会長	書面にて参加
	坂上 公三	新居浜市連合自治会長	書面にて参加
眞田 満	愛媛県立新居浜西高等学校教頭		

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 学校評価アンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none">・キャリア教育について、小学部の保護者に対する説明が必要である。書面やPTA総会などの全体での話になると、見過ごしたり聞き逃したりすることがあるので、個人面談等で説明をするのが良い。・小学部から中学部、中学部から高等部への引継ぎがで不十分と感ずることがある。しっかりと連携や引継ぎができると良い。・ICT機器(タブレット端末)を使用しないといけなから使用している状況があるのではないか。児童生徒自身の生の体験、本物の活動があつてこそ、ICT機器活用だと思ふ。 <p>2 自己評価結果について</p> <ul style="list-style-type: none">・一般的に評価の数値が高く、特に保護者の評価が高い。登下校時や日々の連絡帳など、保護者と教員が話す機会が多く、困つたときにはすぐに相談できている。・改善策等の内容についても良いと思ふ。 <p>3 学校運営全般について</p> <ul style="list-style-type: none">・隣接する新居浜西高等学校と、家庭クラブが主体となつた年9回の交流活動、進路探究の体験学習等を実施している。交流活動については、義務的にではなく、純粋に子どもたちと心と心で接したい生徒が参加している。分校の児童も喜んでるように感じており、双方にとって意義のある良い交流活動になっている。今後とも是非続けていきたい。・危機管理については、新居浜西高校との合同の防災教室を行い、車椅子の運搬等を行った。実際に災害が起つたときにどうするのか、それに対しての改善や対策が必要と考え、両校の担当者で、取組の再検討を依頼している。・避難訓練では地震や津波などの訓練を実施し、課題を洗い出していて、ありがたいと思ふ。・福祉避難所としての学校の在り方を考えていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・キャリア教育の意味、目的、具体的な事例など、学年や児童生徒一人一人について情報を提供できるよう、個人懇談で丁寧に説明する機会を学校全体で設ける。・年度末の引継ぎについては、担当者間での直接の引継ぎとともに、更に部間の協力や連携を深め、学びの連続性を大切にする。・学習の段階が分かるよう、担当者間で具体的で丁寧な説明を行い、情報共有を行う。・児童生徒の実体験を大切にしながら、児童生徒のもてる力を生かせるICT機器の活用について見直しを行う。・一人一人に応じた機器活用の工夫をし、その意義やねらい、必要性などについて保護者と情報共有する。・今後とも本人や保護者の願いを大切に、支援の充実を図るとともに、質問や相談しやすい関係作りに努める。・教育活動、様々な学校行事等についての反省を生かしながら、改善に努める。・体験学習や進路探究での事前講話等を通して、肢体不自由の児童生徒について知ってもらい、相互に理解を深められるよう努める。・ふだんの交流活動では、安心安全に活動ができるよう、事前に感染症等の情報共有を行う。・双方にとって有意義な活動になるよう、今後とも連携を取りながら進めていく。・様々な災害を想定した防災教室を実施し、反省を生かしながら、車椅子の児童生徒の避難の方法、避難に対する改善策を考えていく。合同訓練を通して引き継ぎ、協力体制の構築を図る。・地域の防災訓練を視野に入れ、福祉避難所の開設、緊急時の備品等について課題となる事項を精査する。